

まちかどトーク（太田地区）議事要旨

日時：令和7年12月23日（火）19:00～20:30

場所：太田地域交流センター

参加者：52人

1 市長あいさつ

2 市政に関する説明

「城端線・氷見線の再構築について」「みんなで考える地域交通～市民協働型の地域交流システム～」について総合交通課から説明の後、質疑応答

参加者

道の駅「雨晴」は周辺道路の渋滞や駐車場不足の問題、雨晴駅からのアクセス道路が狭く歩行者が危険な箇所がある。

道の駅「雨晴」へ氷見線で来訪し、帰りはバスを利用している観光客を見かけるが、氷見と高岡を結ぶバス路線についてどのように考えているのか。

氷見線沿線駅の駐車場を整備し、車から氷見線に乗り継いで道の駅「雨晴」を訪れるルートも提案したい。

また、小勢地区の地域バスの状況を伺いたい。

総合交通課

市を跨ぐ幹線系統のバスは重要だと考えており、ルートやダイヤ変更はバス会社から情報を共有いただきながら維持に取り組んでいるところ。

雨晴駅周辺の整備については、市民からの要望を担当部局とも共有し、協議している状況である。城端線・氷見線の再構築は良いタイミングであり、地域の意見を聞きながら進めたい。

小勢地区の地域バスは地区でNP0法人を設立し、地区でドライバーを確保して運行している。地区内を循環し、最寄りの駅や商業施設に接続している。このほかにも、各地区の実情に合わせた運行が展開されている。守山地区と野村地区はドライバーをタクシー事業者に委託しており、中田地区と木津地区では地区住民がドライバーを確保している。戸出地区ではダイヤ、ルートを決めた実証実験を開始したところである。

参加者

城端線・氷見線の赤字を市が永続的に補填し続けるのか。移管にあたり、新車両の導入など、本来はJRが負担するべきだと考える。

市長

JRが運行を続ける場合、十分な投資も無く先細りになってしまう。再編には国の支援も活用できるため、あいの風とやま鉄道への移管に舵を切った。公共交通を中心とした街づくりを進めていきたい。

総合交通課

これまで公共交通計画に基づき、鉄道は採算性や経済合理性を考慮してきたが、誰もが

便利に公共交通を使用し、便利な暮らしを支えるのは、公共の責任であり、行政が投資を行うべきとの考え方に変化してきている。北陸本線はあいの風とやま鉄道への移管後、便数を増やす等の取組により利用者は増加している。城端線・氷見線の移管についても、JR から出資を得て、同じように利用者を増やす取組が必要であると考えている。

参加者

太田小学校の統合後、地元はスクールバスの運行を要望しているが、教育委員会は公共交通を使う方向性を示している。スクールバスを運行できない理由と、地域バスを利用して通学している地区があるかを知りたい。

総合交通課

教育委員会からは、現在、スクールバス、路線バスの双方から検討をしており、年明けを目途に回答が提示できるよう取り組んでいると伺っている。

守山地区では自転車通学の中学生が冬場に市民協働型地域交通にて通学している。

市長

統合後の通学手段の問題については認識している。年明け以降に回答を提示させていただく。

3 意見交換

「高岡市人口ピラミッド」を基に、市長より説明の後、意見交換

参加者

国泰寺、瑞龍寺、勝興寺の3寺の連携を強化して観光客の誘致に繋げて欲しい。

雨晴駅は年間30万人が利用している。観光客に長く滞在いただくために、駅にレンタルサイクルを設置してはどうか。

市長

3寺を巡るツアーの造成は行われている。国泰寺は格式の高い寺院であり、もっと売り出していきたい。

参加者

能登半島地震の際、太田地区では田んぼの排水路や地域の神社の鳥居が破損した。氷見では鳥居の補修に助成金が出たと聞いているが、高岡市では助成対象となるのか。

市長

検討する余地があると考えられる。

参加者

雨晴海岸は富山県を代表する景勝地である。雨晴駅に国内外から多くの観光客が訪れているが、駅のトイレが老朽化していること、荷物を預ける場所がないことが問題である。また、雨晴駅から道の駅「雨晴」までの狭い道路を歩く歩行者の安全性も懸念される。雨晴は海に面しており、若い人が住みたい地域だと考えるが、市街化調整区域であることが課題だと考える。

市長

雨晴駅のトイレに対するご意見は頻繁に伺っている。城端線・氷見線の経営移管作業を進める中でJRに働きかけたい。

総合交通課

城端線・氷見線の経営移管作業を行う中で、現在 JR が所有する駅舎やトイレの問題についても検討されたいと考える。

市長

荷物の預け方についても、コインロッカーと有人の手荷物預かり所の、いずれの方法が適切であるか、すり合わせをしなければならない。

総合交通課

現在、雨晴駅は JR の敷地であり、駅で事業をするためには JR の許可が必要である。再構築に向けた協議の中で、荷物の預かり方を含め、JR に要望や協議を進めていく。

参加者

小学校統合後も、避難所として小学校の校舎や学童保育施設を残していただきたい。地域からこどもの声が聞こえなくなってしまうのは寂しく感じる。

参加者

市から老人会への補助金をいただいているが、老人会では上部組織や協議会に年会費を納めており、単位クラブに残る活動費は少ない。高齢者人口は増えているが、老人会の会員は減少傾向であり、運営のために会員から会費をいただいている。老人会活動が活発になれば、医療費等の削減に繋がるため、補助金について見直していただきたい。

参加者

太田地区は地籍が曖昧で、新しい家が建設できない要因になっている。地籍調査に力を入れて欲しい。

市長

市全域を見ても、地籍調査が進んでいないが、徐々に調査を始めている。国にも働きかけていく。

参加者

先日、不動産会社から、地域の空き家をリフォームして自治会への加入を条件に入居者を募集するという話を伺った。市で移住者を増やすシステムの構築をお願いしたい。

市長

移住者を対象としたリフォーム費用の支援を実施している。

参加者

来年、地域で防災関係の取組を進めていく予定である。統合後も小学校の校舎は避難所として利用できるため、ぜひ残していただきたい。

太田地区の機能を小学校に集約し、1 階を公民館、2 階を貸事務所として活用できないか。

統合に向けて設置された協議会に参加しているが、市が決めた意見の報告を受けるだけの場であり、協議会で協議されていない実態がある。協議会の在り方を変えてほしい。

市長

現場に入らないとわからない意見が多い。今後も市役所と市民が一丸になって、街を良くするため、住みたいまちを実現するために頑張りたい。